

〔元亨釋書二〕慧解釋慈雲略○中寂年四十九大同二年也

〔下學集態下藝カ佗カ界死去〕

〔本朝俚諺太〕他界 佛家より出たることばなり娑婆世界をはなれて極樂世界にうつるといふ事也長明海道記云ついに十念相續して他界にうつりぬ

〔倭訓栞多編十三〕たかい 死するを他界といふは和語なり東鑑に見えてもとは上下通せし詞

と見えたり海人藻芥にも常の人に逝去他界と申べき也と見ゆ今は妄に稱せられず本朝通鑑には頼朝以來の武將は新例を立て皆殂と書せり長明が海道記につひに十念相續して他界にうつりぬといへば佛氏の意なるべし

〔吾妻鏡十二〕建久三年八月廿二日壬戌雜色成里者有多年之功仍御氣色快然頗與御家人無勝劣而去夏比他界殊御歎息略○下

〔吾妻鏡十五〕建久六年七月四日丙戌稻毛三郎重成妻於武藏國他界日來病惱頻雖加鵲療終被侵風痾畢

〔沙石集二上〕地藏菩薩種々利益事

和州ノ生駒ニ論識房トイフ僧有ケリ略○中 他界ノ後讚岐房ト云弟子ニ庵室ヲバ讓テケリ

〔新撰長祿寛正記〕同年四年○寛正ノ夏ノ比ヨリ公方ノ御母君高倉殿御不例ノコト有リ略○中 同八月

八日ノ曉高倉ノ御所ニテ御他界有リ

〔類聚名物考凶事二〕他界 たかい

古へは上下にかよはしていふ詞なるを今の世○徳川府○となりては將軍家にのみ申奉る事とはなれり

〔運歩色葉集勢〕逝去日死